

思い出いっぱいの保育所に別れ

3月16日、市立柏第二保育所（箱田つね子所長）で、同保育所最後の修了式と、柏第三保育所との統合に伴う閉所式が行われました。柏第二保育所は昭和55年に開設し、これまでに401人の子どもたちが巣立ちました。

式では5人の修了児が箱田所長から修了証書を受け取り、母親のもとに寄り添うと、大きくなった我が子の成長に涙をぬぐう姿も見られました。その後、園児全員で保育所生活の思い出を歌を交えながら発表し、思い出の詰まった保育所との別れを惜しみました。

平成25年4月からは公立から私立に移管し、社会福祉法人柏友会（成田英世理事長）に引き継がれ、私立「かしわあつる保育園」として新たにスタートします。



思い出を胸に合唱する修了児たち



福島市長を表敬訪問したカーブラー准将(前列右から2人目)

米陸軍カーブラー准将が市長を表敬訪問

3月13日、第94米陸軍対空ミサイル防衛コマンド（司令部・ハワイ）司令官のダニエル・カーブラー准将らが、車力通信所の視察を機に、同通信所のトーマス・ストックトン少佐らとともに福島市長を表敬訪問しました。

カーブラー准将は「日頃よりつがる市の皆様から支援や協力をいただいていることに感謝します。車力通信所と地元との良好な関係は我々の模範。今後も友好な関係を深めていきたい」と話すと、福島市長は「市では、警察署、自衛隊、車力通信所との間で情報交換しながら連携を図るとともに、チェスボローカップや馬まつりなどのイベントも交流のよい機会になっています」と述べ、歓談後に記念品を交換しました。

福祉に役立てて

県遊戯業協同組合西北支部（林成鎬支部長）が社会貢献活動の一環として3月28日、市に車いすを寄贈しました。

同組合は地場産業育成にも力を入れており、今回寄贈された車いすは境谷自動車（柏）が開発。リクライニング機能などを備え、高い安定性が特長で、昨年、海外のデザイン展にも出展されたものです。同組合では、今年度、つがる市の他、五所川原市、鰯ヶ沢町、深浦町に1台ずつ寄贈しました。

福島市長は「松の館に設置し、大事に使わせていただきます」と感謝を述べると、林支部長は「これからも福祉のために役立てるよう協力していきたい」と話していました。



車いすを寄贈する林支部長（右）



表彰状を手にする乳井委員長

選挙事務の効率化に貢献

平成24年12月16日に執行された第46回衆議院議員選挙で選挙事務を適切に管理執行し、事務の効率化を図ったとして、市選挙管理委員会前委員長の乳井三一氏に3月21日、総務大臣表彰が贈られました。

乳井氏は合併以来、8年間、市選挙管理委員長として選挙事務の管理執行や投票率の向上、明るい選挙の推進などに努め、先の衆議院議員選挙では開票時間を1時間10分短縮するなど事務の効率化に貢献しました。市として初の同表彰を受けた乳井委員長は「大変光栄です。関係者皆様のご協力の賜と感謝の気持ちでいっぱいです」と話していました。



つがる市ジュニアランニングクラブ発足

県民駅伝競走大会のつがる市チームの強化を目指し、つがる市ジュニアランニングクラブが3月20日発足しました。これは、県民駅伝のつがる市チームの成績が低迷する中、市内の有望な長距離選手を探し出し、合同練習会などを通して走力の底上げを図るものです。

松の館で行われた発足式には、市内中学校から推薦を受けた陸上部、野球部などの生徒らが出席。市体育協会の成田昭司会長が「9月1日の大会で順位を上げられるよう一丸となって頑張りましょう」と激励しました。この後、生徒たちは学校の陸上指導者からトレーニング方法の指導を受け、約4キロのコースを走り初練習に汗を流しました。



県民駅伝の順位アップを目指すジュニアランニングクラブ



脳卒中の予防方法について話す齋藤氏

生活習慣を見直し脳卒中を防ごう

2月25日、松の館で健康づくり講座が開催され、約120人の市民らが参加しました。この日は、西北地域県民局地域健康福祉部保健総室(五所川原保健所)の齋藤和子総室長を講師に迎え、「脳卒中とその予防」をテーマに講演が行われました。

齋藤氏は「脳卒中とは脳の血管が破れたり詰まったりする病気で、片方の手足に力が入らないなどの症状が急に起こった場合はすぐに救急車を呼んでほしい。糖尿病、高脂血症、高血圧は動脈硬化を助長し脳卒中を引き起こす。喫煙、高塩分、過食、運動不足といった生活習慣を見直し、自覚症状がない段階で治療することが大切」と参加者に呼び掛けました。

穂波小学校で昔の暮らしを学ぶ交流会

3月6日、穂波小学校(工藤清秋校長)で児童と高齢者の交流会が行われました。これは社会科で昔の道具と暮らしについて学習している3年生の授業の一環で、この日は福原地区いきいき隊(地域回想法修了者:原田禮一会長)の6人が来校。こまやお手玉など昔の遊びを一緒に楽しんだ後、原田さんらが先生役となり、児童の父兄が持ち寄った昔の農具の使い方を教えました。「先生」たちは田植え型を使ってかつての田植えを実演。その後、唐箕や犁を動かしながら昔の農家の暮らしについて語ると児童たちは熱心に聞き入っていました。最後に児童たちが歌を披露すると、いきいき隊の皆さんは「楽しい時間を過ごして気持ちが若返りました」と笑顔を見せお互いに交流を深めました。



昔の田植えを実演するいきいき隊のメンバー



大空高く舞い上がる凧を操る参加者

伝統の津軽凧 空高く舞う

第19回つがる市稲垣凧揚げ大会が稲垣町の岩木川河川公園で開催され、県内外から25団体、約250人の愛好者たちが集まって凧揚げの腕前を競い合いました。

同大会は稲垣凧の会(横山勇一会長)が主催。競技は各部門に分かれて行われ、凧の揚げ方、安定度、鳴りなどの審査が行われました。この日は風に恵まれ、大凧や創作凧が空高く舞い上がり、大きな歓声が沸いていました。

結果は次の通り。(敬称略・最優秀賞のみ)

子供の部:長内俊太、Aクラス:成田喜三郎、Bクラス:青木将大、Cクラス:山谷和寿、団体の部:市浦津軽凧愛好会、創作の部:小野育朗